広報
中部の森林（もり）

国民の森林・国有林
中部森林管理局
〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

薪セミナーパネラー諸氏

「薪」王国信州の確立を目指した取組

ー「薪セミナー」を開催ー

（Ｐ２に関連記事）

主な項目

○「薪セミナー」を開催……P2
○ 寄稿：善光寺出開帳「おしゃもじ」の製作　長野森林組合 ……P2
○ シリーズ「森林官からの便り」 ……P5
○ 新シリーズ「ご当地自慢」 ……P6

「薪セミナーを開催」

【資源活用課】四月二十二日長野林政協議会（構成：長野県林務部・中部森林管理局）では、再生可能なエネルギーの一つとして「薪」の利用を促進し、併せて、農山村の身近な産業として薪の生産拡大を図るため、「薪セミナー」を中部森林管理局で開催しました。

このセミナーは、近年、石油価格の高騰、スマートハウスの普及等を背景に農山村では一般家庭向けの暖房用に薪ストーブを用いる家庭が増大しており、また、都市部では本格的な薪釜を備えたピザ屋が相次いで新規開店するなど、薪の需要量が年々増加していることを受けて開催したものです。

パネラーとして四氏（敬称省略）、需給者側として廣瀬直之（東京燃料林産株式会社）・滝本期一（株式会社 高善商会）、供給者側として木平英一（株式会社 ディーエルディー）・松尾秀樹（薪の松尾）をお迎えし、局長が司会を務めました。

セミナーでは、東京や名古屋・神戸からの流通問屋を含め約八十人が出席する中、需要者側、供給者側の双方による事例紹介と意見交換が行われました。

主な発言として、薪には楢、雑薪、製材薪の三種類があるが、それぞれ特色があることから用途も異なる。また、暖房用と調理用では、求められる品質は同じではない。薪の大きさが生産者により異なるため、需要者から不満が出る場合がある。針葉樹の薪は広葉樹に比べ乾燥が容易。また、スギ、ヒノキであれば、薪ストーブの使用で汚れや脂で問題になることはない。冬の長い寒冷地では、年間の灯油代より安くつく場合もある。ホテルでは薪と炭の併用がみられる。山村の高齢化が進む中、境界の明確化を含め原木の安定供給体制の確立が課題。等のご意見がありました。

薪セミナーの会場の様子

今回のセミナーでは需要者・供給者間での情報交換が熱心に行われ、長期間乾燥が必要なため広大なストックヤードの確保や原木の安定供給体制づくりなど、新たな課題も明らかになりました。

中部森林管理局では、長野県との連携の下、引き続き「薪」についての各種情報の発信に取り組むとともに、「薪」を含めた木材の安定供給に努めてまいります。

薪の生産現場（㈱DLD）長野県伊那市

寄稿

善光寺出開帳「おしゃもじ」の製作

長野森林組合　営業企画課
課長代理　佐藤　健太氏

善光寺の出開帳が平成二十五年四月二十七日から五月十九日まで、両国の回向院で開催されました。この出開帳は、東日本大震災の復興支援を目的としており、戦後初の開催となります。期間中は善光寺の一光三尊、阿弥陀如来像、釈迦涅槃像などを開帳し、毎日法要がとりおこなわれました。

このたび、当組合が、善光寺より出開帳の授与品の「おしゃもじ」の作製依頼をいただきました。「おしゃもじ」の材

授与品おしゃもじ

料には、当組合と中部森林管理局との「国有林材の安定供給システム販売協定」により北信森林管理署管内から出材されたスギを使用し、加工の一部をフロンティアジャパン株式会社南三陸工場に依頼しました。

同工場は宮城県南三陸町の廃校を活用し、被災者の方たちの雇用創出の場として設立され、現在二十名の方々が木製品の加工、セット作業などの仕事をされています。

南三陸町でのおしゃもじ作製風景

震災から二年がたちましたが、被災地の復興はまだまだこれからであり、雇用の創出が求められています。

今後も当組合といたしましては、新たな木材の活用とともに、被災地復興に向けた取り組みも行ってまいりたいと思います。

民有林支援・連携担当者会議の開催

[企画調整課] 民有林との連携を一層深めた管理経営や、森林・林業の再生のための施業の集約化、新たな技術の開発と民有林への普及等について、管内の森林技術指導官と地域林政調整官等を集めた民有林支援・連携会議を四月十八日から十九日にかけ開催しました。

会議冒頭、山元次長より、地域のための国有林となること、地域関係者や民有林との連携を一層深めた管理経営を進めることなどの挨拶の後、局各課より民有林支援・連携施策の取組方針や、民有林関係者と協調した森林整備推進協定等の締結、人材育成に向けた森林技術・支援センターの取組などの説明がありました。

参加した各署（所）の森林技術指導官等より民有林関係者からの要望・相談事項の報告や、今年一月末に開催した中部森林技術交流発表会で発表された「木曽谷流域における民・国連携による林業再生への取組」など三題の発表を受け、今後、より一層取り組むべき具体的事項について確認、共通認識をもったところです。

二日目は、林野庁整備課造林間伐対策室の中本課長補佐から「森林整備事業の概要」と題し、主に森林環境保全直接支援事業（造林補助事業）について説明を受けまた、長野県林務部森林政策課丸山課長補佐より、長野県が取り組む信州F・POWERプロジェクトと林業経営基盤づくり等の推進や第六十七回全国植樹祭に向けた取組、ニホンジカ被害対策などの説明を受け、民有林施策の動向等について理解することができ有意義な会議となりました。

会議の様子（中部森林管理局）

全体会議終了後は、特に新たな技術開発と民有林への普及について県別に打ち合わせを行い「過去に列状間伐を実行した箇所における二回目の間伐」や「伐採・造林の一貫作業システムの導入」などに今後全署共通事項で取り組んでいくことなどを確認をしたところです。

今後とも民有林に対する支援・連携や技術の開発・普及に向けた取組等に関係者一丸となって取り組んでいくこととしています。

各地からのたより

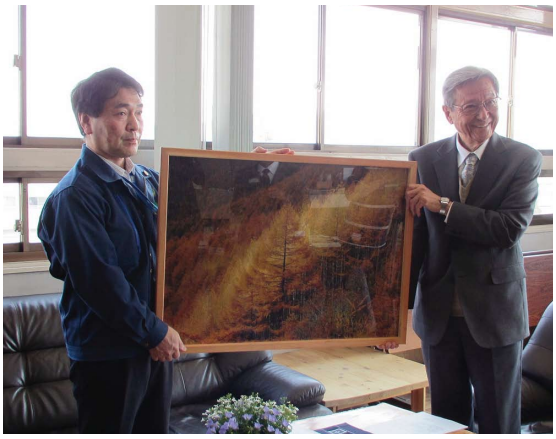
カラマツ黄葉写真コンテスト入賞作品を市町村贈呈

[北信署・中信署・東信署・南信署]

本年二月に実施したカラマツ黄葉写真コンテスト入賞作品、九作品を、入賞作品の撮影箇所である各市町村へ各署長から贈呈をすることとしています（贈呈市町村、小諸市・信濃町・長野市・高山村・松本市・茅野市・川上村）。

まず、五月九日の東信署から小諸市への贈呈に始まり、信濃町・茅野市・松本市への贈呈が終わっています。

高峰高原を撮影した作品を贈呈された小諸市長から「大変すばらしいパネルをいただいた。小諸市は全体がカラマツ林なのでその美しさにこれまであまり気がつかなかった。早速、市民にも見てもらえるよう市庁舎入口のロビーに飾りた


東信署長と小諸市長